

平成 11 年 7 月 5 日

ニュースリリース

大日本スクリーン製造株式会社・
株式会社小森コーポレーション
販売提携開始

大日本スクリーン製造株式会社(代表取締役社長 石田明)と株式会社小森コーポレーション(代表取締役社長 小森善治)は、7月5日、販売提携を取り結びましたのでお知らせいたします。

お問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 広報室
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上ル4丁目
(TEL 075-414-7131、FAX 075-731-6500)

株式会社小森コーポレーション 広報管理課 村田芳実
〒130-8666 墨田区吾妻橋3-11-1
(TEL 03-5608-7806、FAX 03-3624-9519)

大日本スクリーン製造株式会社・ 株式会社小森コーポレーション 販売提携開始

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区 社長：石田明)と株式会社小森コーポレーション(本社：東京都墨田区 社長：小森善治)は、平成11年7月5日販売提携にかかる契約書に調印いたしました。

提携の内容は、両社が相互に協力して、双方の機器、システムの販売に注力するものとし、両社の製品により、システムの相乗効果を生み出す販売協力関係の確立を目指しています。

また、セミナーや展示会での協力、製品の評価やマーケティングに関わる協力関係を築き、将来的には、開発、研究などについても、相互の協力体制を検討していきます。これにより、プリプレスからプレスまで、一貫したソリューションをご提供できる環境が整うことになり、顧客満足度は一層高められ、結果、日本の印刷業界の発展に大きく貢献することを目指します。

< 販売提携の内容 >

- (1)相互に協力して、双方の機器、システムの販売に注力するものとし、両社の製品によりシステムの相乗効果を生み出す販売協力関係の確立を目指す。
- (2)デモンストレーションルームでの展示機器の共有化と共同プレゼンテーション(適時・適所)
- (3)セミナー、講演会、プレゼンテーションでの協力
- (4)新製品・改良品の評価並びにマーケティングにおける協力開発・研究等について、相互に協議して可能な限り協力して取り組む。

< 販売提携における主力製品群紹介 >

大日本スクリーン

1. 統合システム「レナトス」

「RENATUS(レナトス)」はCTPをはじめとするフルデジタル・ワークフローの構築をサポートするシステムです。その最新バージョンは、バックエンドシステム「レナトス大河パッケージ」を中心に、目的や用途に応じた各種ソフトウェアとその周辺のハードウェア群により構成されます。「レナトス大河パッケージ」は、その核ともいべきMulti-functional RIP on Server「大河パッケージソフトウェア」に加え、パフォーマンスにあわせて選べる3種類のハードウェアで構成されます。その特長として(1)さまざまな入力形態、出力フォーマット、出力機への対応(2)バックエンドにおける製版処理の合理化(3)編集可能な中間ファイルにより急な修正への対応(4)RENATUS JobWatcherによる進捗状況トータル管理(5)RIP済みデータのハードディスクへの保管による再出力、さらにCTP対応機能として(1)「レナトスCIP3アウトプット」によるCIP3サポート(2)置き版フィルムのデジタル化対応のためのコピードットサポート(3)FlatWorkerによる異なるjobの1台のプレートへの大貼りなど豊富です。

2. 「CTPソリューション」

大日本スクリーンは、CTPをトータルでサポートするCTPソリューションを展開。前出のレナトスをコアに、高品質出力からカラープルーフ、ワークフローマネージメント、そして最新技術であるサーマル出力まで対応したアドバンスCTPソリューションを提供しています。

これにより、CTPIは、フィルム工程削減に伴うコスト圧縮だけでなく、刷版工程の自動化による大量生産、および印刷機のサイズにあわせ、ジャスト・イン・タイムに刷版を供給できるワークフローが構築でき、印刷機の更なる稼働率向上がはかれます。

ここにきてCTP導入が増えてきた背景には、まずプレートセッターの進歩、材料の安定化、デジタルワークフローの充実と環境が整って来たことにあります。

なかでもサーマルCTPの出現は明室環境でのプレートの取り扱いが可能、高い耐刷力、切れのいいハードエッジな網点品質といった特徴を持つ技術として注目されています。ユーザーは自社の生産形態や既存設備、デジタル化率や版の生産量から考えた採算性等を考慮のうえ、フォトポリマー・銀塩・サーマル方式の中から最適なCTP設備を選択できる時代に來たのです。

大日本スクリーンが開発したサーマルプレートレコーダー「PlateRite(プレートライト)8000」は、独自の外面円筒レコーダー技術と高精度の光学系技術を生かし、その高い生産性と安定した品質、導入後の立ち上がりの速さが評判となって、多くの納入先の生産ラインで実稼動されています。

その主な特長は(1)サーマルプレートをクラス最高速出力(2)さまざまなプレートサイズに対応(3)オートバランス機構でドラムバランスを自動補正、常に安定した高速回転を実現(4)4段階の分解能を搭載し、広範な仕事に対応(5)コンパクトな設置面積、洗練されたボディ・デザイン(6)生産性を向上させるプレート供給・排出口別の2スロット機構、など多彩です。

小森コーポレーション

1 . KHSコモリハイパーシステム

コモリハイパーシステムは、(1)素早い立ち上がり[※]と素早い品質の安定で、印刷準備時間を大幅に短縮し、ヤレ紙・予備紙など印刷資材が激減。(2)素早い立ち上がり[※]により、ロットの大小にかかわらず、高品質なオンデマンドを可能にする。(3)印刷作業の曖昧な部分を数値化することで標準化を推進することができる。といったメリットが得られます。

まず、fullAPQ(完全自動刷版交換装置)により5/100mmの刷版取付精度で一発見当が可能となります。

一発色合わせについて、KHSはまずインキローラー上に基準膜厚を形成。その上に絵柄面積率読み取り装置で測定した面積率データのインキ膜厚を形成します。これをプレインキングといいます。これによりわずか30枚で基準濃度に入ることになります。

また、次の仕事に入る場合、白紙を数枚通し、インキローラー上のインキ皮膜を基準膜厚に戻します。これをリムービングといいます。この作業を繰り返すことで常に原点からの色出し作業となりますので、一発色合わせが可能となりました。

2 . PDC-S分光式色調管理装置

印刷におけるユーザーニーズはさらに多角的となり、特色インキが多用されるようになり、工程間の標準化を進める上で、より高度な色調管理が要求されています。

PDC-Sは、走査式分光測色計を搭載し、インキ濃度・色合いなどを高速・高精度で測定。印刷品質の管理と標準化を推進するシステムです。採用されているソフトウェアは濃度、色彩値、ドットゲイン、プリントコントラストなどの各測色データを数値とグラフで表示し、オペレータの色合わせ作業を手助けするとともに容易な操作性を実現。高度な色調管理により、さらなるカラーマネジメントの充実を図っています。

PDC-Sのメリット

(1)オペレータに優しいノンスキル化を促進

- ・色合わせの段階で、校正刷りや目標色(色見本)との比較が行え、色調の安定化に貢献。
- ・本刷り中は、刻々と変化する微妙な色の変化を感知してオペレータに伝えるとともに、印刷機にフィードバックしてインキ量の修正を可能にします。
- ・オペレータの技量差をなくし、品質のバラツキを解消します。

(2)印刷品質の管理と標準化に貢献

- ・濃度、色彩値を管理し、高品質・高精度を実現。
- ・徹底した品質管理で、色調不良の低減に役立ちます。
- ・印刷品質の数値化を実現して、社内外の共通のコミュニケーションを可能にします。

(3)更なる印刷事業の拡張に貢献

- ・品質測定情報など、得意先への品質保証が可能になり、新規仕事の獲得にもつながります。

<用語説明>

CIP3について(Cooperation for Integration of Pre-press, press, and post-press) 製版、印刷、後加工の各工程における作業情報を統一された形式で活用することを目的とした共同組織がCIP3 Consortium(コンソーシアム: 組合、協会などの意味)です。プリプレスの段階で作られた各種のパラメーターデータを、その後続く印刷や後加工に受け渡せるような形式に変換するための決めごとを制定する上で、一般的な画像を含めたデータ形式であるポストスクリプトが採用されています。これらはCIP3 Consortiumの基本的コンセプトといえます。

この活動が正式に世界に向けて発表されたのが、95年5月のDRUPA展でした。その時点での構成メンバーは大日本スクリーン製造株式会社と株式会社小森コーポレーションを含む22社でしたが、現在では日系企業9社を含む36社で構成されています。

株式会社小森コーポレーションのPCC IVシステムは、大日本スクリーン製造株式会社の統合フロントエンドシステム「レナトス」によって生成されるCIP3/PPF(Print Production Format)データを読みとり、印刷機のプリセットデータに変換します。

これにより

- ・版面面積読取装置を使用しないため、現像ムラ等による測定誤差が発生しないばかりでなく、版面への傷等の人為的なミスが削減される。

- ・全てがデジタル処理なので、安定した高精度の面積率出力ができる。

等のメリットを得ることができ、一層の準備時間短縮、品質向上、効率化・経済性向上に寄与します。